

(土屋誠氏)

意見交換と今御紹介をいただきましたけれども、今日の大きな目的は、色々な立場の皆さんの発表をいただき、現状を認識し、さらにサンゴ礁の大切さも改めて確認しつつ、これからどうしようかということに関しまして、宣言文を出したいという目標があります。それに、つきましては1つ前のバージョンではありますけど、皆様のテーブルの前に置いてあると思います。また少し分かりやすく、ポンチ絵として描いたもの、これは、宣言文の項目の文言を記したものですので、どういう内容になっているかを概要として知るといっていいかと思っております。そして、最後の古川さんの御発表の中に成果文章を出すというような言葉が出てきました。もちろんこの宣言文も成果の1つです。でも、宣言だけではこの内容はここにおられない皆さんには伝わらない。そこでどうするかということ、折々話し合ってきました。私が今から言うことを初めて聞く人もいますが、嫌と言わないで欲しいと思います。今日多くの発表をいただきました。それを記録に残したいと思うのです。こんなに重要な発表をいただいて、また意見交換をしたものを、これで終わりにはしたくない。その方法にどういうものがあるのかということを考えてきておまして、1つの可能性は本にすること。2つ目は日本サンゴ礁学会誌の一冊を特集号として使うこと。あるいは内容をCDに入れて、販売すること。販売というと金儲けになってしまってますよね。ともかく、形にして残すということが大変重要なのではないかと考えます。しかも、緊急宣言ですから、のんびりと書いてもらうわけには、割合、短い間にお書きいただいて、それをまとめたいという提案をさせていただきたいと思っております。どれくらいの期間か、三ヶ月も四ヶ月も待つつもりはありません。一ヶ月で書いてくださいと、厳しいことを言いたいと思っております。お手伝いもさせて頂こうと思っておりますので、御協力いただいて、この集まりの成果を広く色々な方にお伝えできるように工夫できたらと思っております。

さて、宣言文については、1つ前のバージョンではありますが、既にお読みいただいたという前提で、話を進めたいと思っております。もう既に色々な御意見を頂戴しておりますので、それを新たに盛り込みながら、あるいは削除しながら考えていきたいと思っております。それから、アンケートをたくさん頂戴しています。実際に誰が活動するのか、どんな風にお金を取ってくるのかという、具体的なところの御質問は非常に多くいただいております。もっともだと思っておりますけれども、今日この場で具体的なところまで決めるということはなかなか難しいと思っております。多くの方からそのような御意見を頂戴したということのを頭に叩き込んで、次のステップに進めたいと思っております。

それで、最初にこの宣言文と関連して、今までの御報告ではあまり出てこなかった内容についてコメントをいただこうと思っております。何名かの方をお願いしておりますので、御意見を頂戴したいと思います。サンゴ礁から私たちが得ている恵みというのは間違いなく魚であったり、貝であったり、食べ物がまず話題として出てくると思っております。でも漁業の話、養殖の話はもちろん出てきましたけれど、魚の話などは少し手薄だったような気がします。専門家が来ていらっしゃると思いますので、その話を、漁業の話、魚の話等を、難しいかも知れませ

んが、サンゴの白化と関連させてコメントがいただけないかと難しい注文をしておりますので、西海区水産研究所の名波さんから最初に口を切っていただけないでしょうか。

(名波敦氏)

西海区水産研究所の名波と申します。よろしくお願いいいたします。私はサンゴ礁の魚の研究をしておりますが、漁業対象となる魚と、生態系サービスに貢献する観賞魚の研究をしています。サンゴの白化によってサンゴが死ぬと、魚にどのような影響を及ぼすのかということをよく尋ねられます。住み場所や餌となるサンゴが死ぬと、それに伴って魚が死ぬという大雑把な話は皆さんすぐに御理解いただけると思います。しかし、その一方で、水産的に重要な魚とサンゴの関係については、魚の種類がかなり多いので、まだまだ調べられていないことがあります。従って、水産的に重要な魚に対するサンゴの白化の影響については、今後解明することが益々重要になると思いますので、サンゴと魚の研究をバックアップしていただけるような体制があれば大変ありがたいと思います。もう1つは、実際にサンゴが白化して死んでしまっても、白化に強いサンゴの種類があるというお話を先ほどの発表でも勉強させていただきました。サンゴが白化してしまったら、サンゴを回復させるという方策はとても大事だと思いますが、その一方で、サンゴが局所的に生き残っている場所があること、あるいは、白化に強いサンゴが魚の住み場所になっているということも、結構分かってきています。従って、そういうデータをきちんと整理した上で、サンゴが生き残っている場所をエコツーリズムの場所として利用すれば、ツーリズムで生計を立てている方への影響が最小限に抑えられるかも知れません。ただし、サンゴが生き残っている場所が限られてしまった場合、そこに利用者が集中することが考えられるので、適切で持続可能なツーリズムの推進という意味でも、生き残ったサンゴをどのように利用していくかを考えることが必要だと思います。

(土屋誠氏)

ありがとうございました。お話の中にツーリズムという言葉も出てまいりましたが、今日の話の中にもツーリズム、観光面の話題がほとんど出てまいりませんでしたので、その分野からのコメントも頂戴したいと思ひまして、コメントを日本交通公社の寺崎さんをお願いしております。よろしくお願ひします。

(寺崎竜雄氏)

公益財団法人日本交通公社、寺崎と申します。本日の緊急対策会議のテーマであるサンゴの大規模白化と観光にはこれまでの研究結果を伺っていると直接的な因果関係がないようですが、観光利用は少なからずサンゴにインパクトをもたらします。資源管理にも責任を持

つ観光を進めていく、持続可能な観光に取り組む必要性は自明なことだと考えています。折しも、UNWTO、国連の世界観光機関が今年を持続可能観光年と位置づけ、様々な取組を活性化させていますので、このような我が国における海浜部における持続可能な観光を考える良い機会だと思っています。具体的にどのようなことをやっていくか、大きくは3つあると考えています。1つはサンゴの状態、あるいはサンゴからの恵みであるとか素晴らしさをきちんと観光利用者に伝えるような仕組み、つまり、インタープリテーションですね。ツアーの形態としてはエコツアーと言っていますけれども、そういったことを充実していくことがまず大事なんだと思っています。2つ目はやはり観光利用による何らかのネガティブなインパクトが見られるようであれば、観光利用者の行動を抑制したり、誘導したり、調整したりというような、ローカルなレベルでのルール作りがすごく重要になると考えています。3つめは資源管理に関して今我々の中でもきちんとした資源の状態を保たなければ観光事業は続けられないし、観光者にとってもですね、大きな喜びや感動であるとかは伝えられないわけですから、その資源を管理するための方法として、受益者負担、つまり保全に関して、積極的に利用者が関わっていくこと。それは費用負担面も含めてという文脈で最近言われていますが、そういったこともそろそろ考えていっていいのではないかと考えています。ただ、こういうようなことは理屈では分かってはなかなか現実に仕組みをつくることは難しいので、先ほど各先生のコメントにもありましたけど、地元関係者が十分に話し合っていくことが重要だと思っています。その際に、やたらに感情論に走らないように、きちっと科学的データに基づいた議論が進められるような土壌づくりが必要だと思っています。特に資源の状態については、今日たくさんデータを御紹介していただいたように状況を把握する材料があるんですが、そういった面だけでなく、利用者に関わること、単に人数だけではなくて、彼らのそこに訪れた時の満足度なども含めて把握する必要があると思います。また、利用者を案内したりサービスを提供する観光事業者である地元の観光経済が、どのような状態であるか、どのように変遷してきているかを知ること重要です。さらに、そこに生きている人たち、生活者、住民の意識というものがどのように変わってきているか。つまり、このような指標データの変遷、モニタリングというのをきちんとやっていく。あるいはやられているのだとすると共有する。最近僕があちこちで言っているのが、モニタリングの縦割りが随分あるように感じているということ。あるところにデータはあるので、それを集めて1つのテーブルに乗せて話すようなことが重要なんだと思っています。次に、これまでとは文脈は変わるのですが、緊急対策が必要じゃないかと思っているのが、外国人の旅行者への対応です。今朝か昨日のニュースでも中国人の観光ビザに関する若干の緩和の話が政府でされていると伺いましたし、2020年には日本を訪れる、訪日観光客数を4000万人にする。沖縄の第五次観光振興基本計画は2021年を目標年度としていますが、その中間見直しでは1000万人から1200万人まで目標とする入域客数を上げています。その増加分の200万人はすべて外国人客を想定しています。また、そのほとんどはクルーズ客の増加という根拠になっているようです。クルーズ船を利用して、一度に数千人の人が訪れるとどうなるか。何十台ものバス

に分乗した外国人がお土産屋さんに行ってくれるならありがたいですけど、その何分の一が一気にどこかのビーチに行って、みんなで、さーいけ！というような状況は想像したくないですね。何らかの対応策が今求められているような気がします。

(土屋誠先生)

ありがとうございます。蓄積されている多くの情報を整理するというのは並大抵のことではないのですが、しなければならぬ時には努力する必要があります。それで、外国人の観光客の話も出てまいりましたけれども、こういう目的を持った活動をする時に、日本だけでなく、諸外国の情報を色々勉強しながら進めていくという方法も重要かと思えます。それから、どうしても沖縄中心の話題になってしまいますけれど、サンゴが生育している他の地域との連携というのは必ずや重要なものになりますので、ご意見を頂戴したいところです。先ほどのいくつかの発表の中で名前が出てまいりました野島さんは現在ふたばという会社にお務めです。けれども、九州大学時代から、鹿児島県で、あるいは沖縄県石西礁湖で、あるいは諸外国で色々な活動をしてきておられますので、ご経験を基にコメントをいただければと思います。

(野島哲氏)

今、ふたばという福島県のコンサルタント会社に所属させて頂いています、野島と言います。今回、色々お話しただけなのですが、いろいろな所でのプロジェクトに今まで関係させて頂いています。サンゴの白化につきましても、1998年、2007年、それから今回の白化についても、若干の関係をさせて頂きました。コメントを何か言ってくださいということだったので、1つ目は、今ほとんど、琉球列島弧の礁池内に健全なサンゴがないという事実ですね。2007年の時には、石西礁湖とその他の島に健全なサンゴ群集が残ってまして、その時に金城浩二さんがお話になりましたけども、高温耐性を持った、あるいは紫外線に対して耐性を持った種類が生き残るんじゃないかと密かに期待していたんですけども、今回のサンゴの白化で全部それがなくなってしまって、だんだん暗い気持ちになってしまっていたんですけども、世界的に見ても、いろいろな所でフェイズシフトって、いうんですか、以前の景観と違ったようなサンゴ礁ができつつあるというふうなことが起こってまして、今はまだ、世界的な政策としてはサンゴ礁の修復というところに、これも金城浩二さんが言われましたけれども、待たなし、というのが私の感じるところであります。以上です。

(土屋誠氏)

ありがとうございました。待たなしだから、何かをしなければいけないわけです。そこ

に向かってここに集まった皆さんで進んでいくことができれば素晴らしいと思います。沖縄中心と言ってしまいましたけれども、頼んでありませんが、四国で活動しておられる、岩瀬さん。何かお話を聞きながら、言いたいことなどが出ていないでしょうか。

(岩瀬文人氏)

突然のご指名でちょっと慌てておりますが、四国も昨年は少し白化が始まって、これはもしかして大変なことになるかなと思っていたら、折よく、ちょうど良くらいに台風が来て、大きな被害はなくて済みました。ただ2010年にはかなり死亡群体があるような白化もありました。今、四国全体としては、サンゴは増えている状態なのですが、一方でオニヒトデなどによる攪乱もなかなか激しい、非常に不安定な状況です。漁業者からは海藻が欲しい、サンゴなんて欲しくないとされてしまう、という非常に難しい状況です。このような状況の中で今、サンゴの保全のためにどういうことをやっていくのか、人の暮らしがどんどん疲弊していく中で、できることが少なく、今その中であがいています。サンゴの白化というのは単純にサンゴが死ぬだけではない。サンゴが死ぬことでその後に起きる生産力や生態系の安定性の低下が非常に大きな問題だと思っています。四国も安閑としてはられない。サンゴはたまたま白化がそれほどひどくなくても、同じ時に海藻が大量死したりしますので、同じような現象が起きてますね。何か取組をしていきたいと思っておりますが、まだ、具体的に何をすれば良いのか、難しいと思っております。

(土屋誠氏)

ありがとうございました。それぞれの地域が抱える問題というのは、似たところもあれば違ったところもありますので、一筋縄ではいかないということは理解したいと思っております。多くの方に御意見を頂戴したいところではありますけれど、時間的な制限もありますので、緊急宣言のとりまとめも気にしながら進めてまいります。実は昼休みに少し意見交換をしております。その時に様々な意見を頂戴しましたし、アンケートの中でいただいた色々な文言をうまく散りばめながら改良するという努力も、隣の人が一生涯懸命、コンピュータを打ちながら頑張っております。最初に茅根さん何か、ご意見をいただけますか。

(茅根創氏)

昼の会合でも申し上げたんですけど、簡潔にもう一度繰り返しますと、この宣言は昨年の白化を受けて今後何ができるかということを考えるそういう宣言なのであります。“Think globally, act locally”の“Act locally”の方をどうしますかということ、主に具体的にこれから議論して、あるいは宣言に盛り込むのだと思うのですが、それにしても、昨年の白化というのは、いかにAct localしても、高水温になられてしまうと、これだけになられてしまうと、もう努力が水の泡になってしまうという、そういうことだと思いま

す。そういう点で、1ページ目の、下から7行目のパリ協定の目標の達成に向けた取り組みを推進する必要があります。このパリ協定をなぜ守らなければいけないかというのは、まさに昨年のこの20年間のサンゴが白化で示していたことですので、それがかなり具体的に、私の報告でもお示ししました通り、分かってきた。2度上昇すると、もうサンゴは大規模に白化するということがはっきりと分かりました。パリ協定を守らなければいけない理由として、その1つ上のパラグラフでIPCC第5次報告書によれば、水温の上昇が継続すれば、サンゴの白化現象が増加しとありますが、ここは具体的に気温の上昇に伴って水温が2度上昇すれば、サンゴが毎年大規模に白化してしまっただけで壊滅的な打撃を受けるということをきちんと盛り込んで、そのためにパリ協定の順守が必要なんだという、そういう流れにさせていただきたいと思います。パリ協定に関しては、最後の4ページ目の10番のところで、これを生態系の危機と受け止めて、パリ協定に従って温室効果ガスの削減を進めなさいということですが、これはサンゴ礁のことだけではないと思います。サンゴ礁がいち早くこの危機を伝えているだけであって、今後さらに他の生態系が続いていくことは間違いありませんので、ここは10番は、白化は地球温暖化と環境変化に対して最も敏感なサンゴ礁の警告と受け止め、サンゴ礁生態系と地球の生態系を保全するために、パリ協定の目標の達成が不可欠だというような、より一般的なメッセージにしたらどうかと思います。

(土屋誠氏)

ありがとうございます。今ご提案いただきましたような内容を盛り込んだ改良案を作っております。その他、いくつかの点で、意見をいただいています。例えば、サンゴ礁に大きな影響を及ぼす要因というのは白化だけではありません。その部分は書いてあるのですが、オニヒトデの発生、あるいは最近よく話題になっておりますサンゴの病気のことも記述しろという、もっともなご意見もいただいておりますので、盛り込んでまいります。それから4ページの9番、ここは改めて宮本さんにもお伺いしたいところですが、地域横断的な連携推進というのは、サンゴ礁が存在する場所に住んでいる人々と、そうではない、具体的には東京とか名古屋とか、大阪とかの人たちとどのような連携を組むことができるということも含めたご提案だったと、理解しております。そこで、サンゴ礁域の取組を支える観点ということで、このような文言を挿入しておりますけれども、科学的にいうとサンゴ礁という言葉はリーフを作っていないとサンゴ礁ではないと言われてしまいそうですけれども、あえてそれを表現するならば、サンゴ分布域という言葉を使うのかとか、どのようにご提案をうまく反映させるか、というところは悩んでいるところですが、宮本さん、これでよろしいでしょうか。それとももう少し改良する方がよろしいでしょうか。ご意見がいただけると大変助かります。

(宮本育昌氏)

誰に読んでもらいたいかということを考えることで変わるとは思います。我々の活動の

中では、サンゴ礁だけではなく、サンゴ群集域も調査の対象にしています、と言っています。ですが、私が読んでもらいたいのは市民であり、その中で幅広い人に理解をしてもらい易いと言葉という観点で言えば、「サンゴ礁域」が良いと私は考えます。

(土屋誠氏)

ありがとうございます。この文言につきましては、私も何度もやり取りをさせていただきましたし、この中の何名かの方ともメールでやり取りをしました。昨日は数時間に渡って、一文一文チェックをしたつもりでありますけど、さらにまだ改良の余地があるようです。環境省の奥田課長から、今のことも含めて全体的なコメントをいただけるとありがたいと思います。

(奥田直久課長)

はい、ここで振られるとは予想していなかったのですが、今の点だけ最初にコメントさせていただくと、まさに、宮本さんのご指摘は非常に重要なポイントで、今回特に、サンゴ礁域を中心に活動されている方が多かったのですが、それ以外の方々を巻き込む、参画を得るということをぜひ含めた言葉にしたらいいのではと思っています。サンゴ礁域以外の様々な主体が参画するような協力のネットワークという形ができたらいいなと思っています。全体的なところでは、当初、この宣言を想定したときには、この宣言で全ての具体的なプランは出せないだろうけれども、今日参加した方が持って帰る、もちろん環境省としてやるべきことはきちっと示すような形で、沖縄県をはじめサンゴ礁域の県・自治体、もしくは研究者の方々、民間の方々、それぞれが実施できるような材料を宣言の中に織り込むということが重要だと思っており、また、メッセージとしては、一般の方々にはこういった問題が起こっていて、自分たちは一人ひとり何ができるかということを考えてもらう、その材料になればいいなと思っています。全体として大きなものになってしまったので、先ほど参加者の方とも一部話していましたが宣言そのものは宣言として最後に採択していただくとともに、コンサイスなものは、普及する段階で、また皆様方のご意見を聞きながら、もしくは、環境省の責任の下で発信していきたいと思っています。

(土屋誠氏)

ありがとうございました。奥田さんは那覇事務所にもお勤めの経験がありますので、サンゴ礁のことは非常によく理解しておられます。それでは、皆さんの方から追加の質問、ご意見等をいくつかお受けしたいと思っておりますけど、この緊急宣言案につきまして、今までのこと以外で、何かコメント御意見ありましたら、お出しいただけますでしょうか。

(農林水産省 森美穂係長)

農林水産省から、一点だけ、3ページの4.2のところなんですけれど、先ほどコーラルネ

ネットワークや、笹川財団の方から発表があったように、この沿岸域の総合管理というのは、地域の方々の取組が主体であって、これに対して様々な主体の人たちがネットワークを生かして後押ししていこうという内容だったかと思うのですけれど、今の書き方だと農業者、漁業者、行政機関というのが、あまりにもフィーチャーされすぎているかなという感じがするので、もし書くとすれば、行政機関が最初に来るのかなと、NPOとか市民団体も中に入れていくべきなのかと、検討して言わせていただきたいと思います。

(土屋誠氏)

ありがとうございます。順序はともかくとして、NPO等を挿入しなさいという御意見と伺ってよろしいですか。ありがとうございます。異論はないと思いますので、そのように、改良いたします。ついでですが、その2行目に書いてある、陸域と海域を一体的にとらえた取組というのは、色々な方のご指摘にもありましたところですので、サンゴ礁を取り巻く様々な環境、生態系を一緒に考えながら進めていくような姿勢は打ち出すべきだと思います。ここで改良できるかは分かりませんが、そういう意識は持っているということをご共有したいと思います。他にいかがでしょうか。

(中野義勝氏)

今の御指摘に関連してですけれども、沿岸域の統合的管理の視点というふうに4.2に書かれています。この文章の上に、陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩への対策の推進とタイトルされています。今日の発表の中では、これを超えて、この四角囲み全てがそれを指すように皆さん発表されていました。ここを読者に間違いなく伝える工夫が必要かと思えます。

(土屋誠氏)

ありがとうございます。ここの難しさはですね、その4の上の四角にありますように、この4,5,6はサンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020の重点項目に沿った書き方になっております。この行動計画に書いてないことをたくさん盛り込むということはなかなか難しいという点もありますので、当面はその重点項目を中心に書き込んだという事情もございます。でも、おっしゃることは分かりますので、必要に応じて他のところでも繰り返し述べていることもありますし、工夫して参りたいと思います。ありがとうございます。他に何かございますか。

(大沼あゆみ氏)

慶応大学の沼田です。この、宣言案を拝見しまして、非常に包括的な側面からサンゴ礁の対策というのが書かれていると思いました。私は、対策が持続的であるためのところをぜひ強調していただきたいと思います。7.2で、費用対効果の評価することについてもう少し詳

しく申し述べると、サンゴ礁の取組は手段のパッケージで行うべきで、色々な観点から適切な手段を取り出して使っていくべきなのですが、長くやっていく上で、主たる対策と副次的な対策というものをどうしても分けていく必要があるのではないかと思います。先ほども中野さんのお話を聞いていて、集約的に集中的に対策やらなきゃだめだということですが、そのためにもきちんとした費用対効果というのを示すことがまさに必要なのではないかと思います。ただ、山野さんや中西先生のお話を聞いていて、赤土や栄養塩の対策をすることがどれだけ効果があるのかについての費用効果性は、大変複雑であり、まだ研究がこれから必要なのではないかと思います。一方で例えば、サンゴの再生では、一本 3000 円で移植して生存率が 20% だとしたら、一本当たり 15000 円という形で非常に容易に出来るはずで、是非、さまざまな手段の費用対効果というのを今後きちんとやっていただきたいと思いません。

それと共に、取組みが持続的であるためには、資金調達というのを考える必要があるのではないかと思います。今日の冒頭で、サンゴ礁の生態系サービスへの支払いについて言及がございました。それは以前から言われていましたし、間接的なものは出てきてはいます。しかし、税の形での支払は、まだ実現していません。一方、森林環境税については、本格的に国レベルで検討されるようになり、森林の炭素固定という生態系サービスに対して税の形で支払を行うことがまさに現実になってきたわけです。ですから、サンゴ礁の生態系サービスに税の形での支払というものを、世界でいち早く検討され、資金調達の方策というのを探るような提案も、ぜひご検討いただければと思います。

(土屋誠氏)

ありがとうございました。この部分は大沼さんからのご提案を記したところではありますが、今御説明いただいたような生態系サービス税の支払いなどが御存知のように日本では既にいくつか始まっているわけです。慶良間では、ダイビングを楽しむ人は一人 1 回いくら払うとか、それから先ほども説明いただいたように、農林水産省の多面的機能への支払いというのも、これは 1 つの支援であって、十分にサービスへの支払いと考えることができるでしょう。あるいは、色々な国では、国立公園に入る時にお金を取る、それが保全にうまく役立てられているなら、大変結構なことですので、先進国の事例を色々学びながら、私たちがサンゴ礁を、後追いにはなるかも知れませんが、工夫をしていくことができればと思います。ここにすぐ、盛り込むことができるか、既に盛り込んでいるのか、ちょっと難しい所ではありますが、ここで議論されたことは記録に残っておりますので、今後に生かしたいと思えます。今スクリーンに映っていますのは、緊急宣言の項目だけを書き出しまして、こういう内容の宣言をするよ、という要旨です。少し分かりやすくするという意味で色分けをしたり、工夫をしたりしていますけれど、宣言文とセットで公表をして、色々な人に説明する時に使うことができればと思っています。文言のことで、色々既に皆さんのお手元にあるものとは違うものになっているところもありますけれども、内容的には今日御議論いた

いたことがうまく含まれていると思っていますので、これを使いながら今後の活動に生かしたいと思います。それから今非常に重要なことを指摘していただきました。資金の面ですね。これについては大変それぞれが苦労するわけですが、環境省の立場としては、きっとこの後比嘉政務官が覚悟のほどをおっしゃるのではないかと、期待しているところですけ。圧力をかけてしまいました。それほど、真剣に、取り組まなければならないということを私たちは理解して参りましょう。すぐ、今までにいただいた意見をまとめて、お手元に渡すことはできませんが、お帰りになる時に、修正したものをお配りできるよう、今準備をしていますので、それを宣言文と、最終的なものとする約束したいと思います。今まで議論していただいたものを、うまく組み込んだものを宣言文とすることを全体としてお認めいただければ大変ありがたいと思いますけれども、いかがでしょう。

拍手

ありがとうございます。それでは、お手元の緊急宣言を今までの議論を踏まえて修正したものを、最終的な緊急宣言として、今日お帰りの時にお持ち帰りいただくようにいたします。色々いただいた意見につきましては、1つ1つお答えするのが筋です。できるかどうか分かりませんが、例えば環境省のホームページの中で重要なところをお答えいただくかですね、色々な工夫はこれからも考えていきたいと思っておりますし、しっかりと資料として保管いたしまして、今後の活動に役立てることをお約束いたします。

(茅根創氏)

一言。発表の場所として座長から日本サンゴ礁学会の学会誌という案がありましたけれども、私、日本サンゴ礁学会の事務局長をやっておりますけれども、是非日本サンゴ礁学会の学会誌に、宣言と共にまとめていただいて、発表していただきたいと思っております。学会は1997年に設立して20年。研究者だけでなく国の様々なセクター、県、民間企業、一般の方のフラットな議論の場、さらに学会の使命としては、そういった成果を一般に広く発信するというそういう機能を唱っておりますので、是非学会を活用していただきたいと思っております。学会はこの11月に、これまでずっと任意団体だったのですけれども、法人化致しますので、そういったところでも社会的責任をこれまで以上に果たしていきたいと思っておりますので、ぜひとも、支援をお願いいたします。

(土屋誠氏)

はい。ありがとうございました。特に発表いただいた皆さんにつきましては、これから事務局と相談いたしまして、執筆依頼をお届けしますので、ぜひノーと言わないようお願いしたいと思います。それでは私の役割はここで終わりです。よろしいでしょうか。

( 司会 岡野隆宏調整官 )

ありがとうございます。ここで意見交換を終了させていただきたいと思います。それでは、最終版を作成させていただきたいと思っておりますので、その関係で少し休憩を取らせていただきたいと思います。